

東京オリンピックに向けて

～ソチ五輪日本選手団団長 橋本聖子参議院議員に聞く～

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定している。二度目の東京での開催を、東日本大震災を乗り越えて力強く発展していく日本を世界中に発信するとともに、平和憲法を有する日本が、平和の祭典を成功させスポーツの素晴らしさを伝えるための課題は一体なんなのか。

ソチオリンピック・パラリンピックの余韻が残る中、日本選手団団長を務めた橋本聖子参議院議員に聞いた。

◆中長期的な選手育成

井林 ソチ五輪お疲れ様でした。東京五輪では多くのメダルが期待されます。見えてきた課題と抱負を教えてください。

橋本 日本の皆様のご声援有難うございました。出場選手は本当によく頑張りました。ベテランから若手まで幅広く活躍し、日本スポーツの底力を感じました。今後は、東京五輪時に前回ロンドンの平均年齢25.4歳を中心とした世代(現在17～21歳)をターゲットに計画的な育成・強化を行い、金メダル25個以上、総メダル70個以上を目指します。応援よろしくお祈りします。

◆真の大会成功に向けて

井林 大会を成功させるための課題はなんですか。

橋本 まずは、安全・確実な大会運営の実現です。さらに、多くの選手が快適に過ごせ、競技に集中出来る選手村。世界最高の競技を支える、最高水準の競技場が数多く求められます。また、多くのボランティアに参加していただく必要もあります。

◆スポーツを通じた人間形成

井林 単なる五輪で終わらせないために、何が必要でしょうか。

橋本 競技では人間力も問われます。人間力育成にも力を入れます。そして、他の方々へ波及して日本人全体の人間力の向上に役立つようにしていきます。



橋本聖子(はしもと・せいこ)氏

北海道生。3歳でスケートを始め多くの困難を乗り越え、サラエボ・カルガリー・アルベールビル・リレハンメル(冬季・スピードスケート)、ソウル・バルセロナ・アトランタ(夏季・自転車)の7大会出場。アルベールビル五輪で銅メダル獲得。平成7年より参議院議員。外務副大臣、参議院自民党政策審議会会長等を歴任。ソチ五輪では日本選手団団長を務め、日本人選手の活躍をリードした。

つようにしていきます。

単なる一過性のスポーツ振興に終わらせずに、スポーツを通じて教育・福祉・医療・食育・観光等大きな社会問題にアプローチし、スポーツ文化力の向上を図ります。

その時初めて、東京オリンピック・パラリンピックが成功したと言えるのではないのでしょうか。

井林 課題は多いですね。私も頑張ります！

橋本 大会を成功させ日本を世界に発信！そして、日本の課題を解決していきましょう！

2020年東京オリンピック・パラリンピック概要

(正式名称)第32回オリンピック競技大会

2020年(平成32年)7月24日(金)～8月9日(日)《予定》

陸上競技、水泳、サッカー等28競技が行われる。

(正式名称)第16回パラリンピック競技大会

2020年(平成32年)8月25日(火)～9月6日(日)《予定》

アーチェリー、陸上競技、カヌー等22競技が行われる(予定)。